

平成 30 年 6 月 12 日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15H03406

研究課題名(和文) 日・韓・英・独4ヶ国の温暖化・エネルギー政策と政策ネットワークの比較分析

研究課題名(英文) Comparative Study on the Climate Change and the Energy Policy in East Asia

研究代表者

長谷川 公一 (Hasegawa, Koichi)

東北大学・文学研究科・教授

研究者番号：00164814

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,300,000円

研究成果の概要(和文)：(1) 聞き取り調査とデータ分析を通じて、日本の気候変動政策で特徴的な、経団連・業界団体による自主行動計画が機能するメカニズムとして、「フリーライダー」の抑止機能と、より先進的対策を求める企業の声が顕在化するのを抑止する「保守化フィルタ」の2つの機能が明らかになった。(2) パリ協定を契機に、英とカナダが提唱した「脱石炭発電連合」をはじめ、ドイツを先頭に脱原子力と脱炭素の両立をめざすエネルギー政策が主流化しつつある。韓国も、文政権のもとで、長期的に脱原子力・脱石炭をめざしている。(3) 日本国内における石炭火力発電建設問題について、仙台市・千葉市・袖ヶ浦市・横須賀市・神戸市の事例研究を行った。

研究成果の概要(英文)：First, from the study on the voluntary approach to climate change policy in the industrial sector, the role of business associations in Japan was revealed. They consider the effect on member company in the most adverse scenario. It prevents the occurrence of "free-riding." They also need to evidences of the effectiveness of the policy to avoid the introduction of additional policies. Second, "Powering Past Coal Alliance" led by England and Canada, was established in November, 2017. De-nuclearization and "Past Coal" are the main stream of new energy policy. Germany is a leading example. Under the Moon presidency, Korea also changed it's energy policy toward de-nuclearization and past coal, although Korea lacks for oil resources and external electricity supply. Third, after the Fukushima accident, Japan's government and power companies are promoting construction of coal-fired power plants. Air pollution, GHG emissions and other bad effects were worried and citizens are protesting.

研究分野：環境社会学

キーワード：気候変動政策 地球温暖化 国際比較研究 政策ネットワーク パリ協定 メディア分析 政策形成過程 エネルギー政策

1. 研究開始当初の背景

第21回気候変動枠組条約締約国会議(COP21)を前に、独英を中心とするEU、アメリカ、中国、韓国などでは気候変動問題への関心が高まり、COP21で、世界全体が参加する温室効果ガス削減の新たな国際的枠組が成立するのか国際的に注目が高まっていた。しかし福島原発事故にもかかわらず、日本では、エネルギー効率利用への関心が高まったものの、気候変動問題および気候変動政策への関心は低いままにとどまってきた。

日本で気候変動政策・エネルギー政策転換への関心が高まらないのはなぜなのか、国際的・国内的文脈から社会的に明らかにする必要がある。

2. 研究の目的

2010年～13年度の基盤研究(A)「温暖化政策の政策形成過程と政策ネットワークの国際比較研究」の研究成果をふまえ、本研究では、パリ協定成立前後の気候変動政策とその国内外の規定要因に関して、日本・韓国・英国・ドイツの4ヶ国について、気候変動政策・エネルギー政策と政策ネットワークに関して国際比較研究を深掘りすることとした。

3. 研究の方法

ドイツ・英国は、EUの気候変動政策・エネルギー政策をリードしている。韓国は、石油資源に恵まれず、またEU各国と異なり周辺国から電力供給を受けることができないなど、気候変動とエネルギー問題に関する地政学的条件も日本とよく似ている。

2010年～13年度の基盤研究(A)で得られた日本のデータの分析を進め、国際比較研究を進めるうえで、韓国・英国・ドイツはもっともふさわしい国である。

福島原発事故のエネルギー政策への影響、2012年後国内で急増した石炭火力発電所建設問題にも、韓国・英国・ドイツとの比較政策研究の焦点とすることとした。

具体的には、「パリ協定」採択・批准後の各国の気候変動対策に関する情報収集に努めた。日本国内では、環境省の気候変動問題の担当者、気候変動問題に関する環境法学者・環境経済学者・環境政治学者、地球温暖化防止活動推進センター(JCCCA)、WWFジャパン、気候ネットワーク、地球の友ジャパンの気候変動担当者との情報交換をすすめて、「パリ協定」採択・批准後の日本の政策の現状と課題について、原発再稼働問題と石炭火力発電所建設問題に焦点をあてて、分析を深めた。

4. 研究成果

(1)日本の気候変動政策で特徴的な、経団連・業界団体による自主行動計画が限界はありながらも機能する2つの要因として、「一番

不利になる企業に合わせる」ことが、離脱を防止し「フリーライダー」を抑止する機能を持っていること。第2に、業界団体の政治的影響力を確保し続けるという動機が、気候変動対策への一定の誘因を持っていることが明らかになった。しかしこれらの要因は、「政府の影」を利用して、業界団体・各企業を主体的従属性にとどめ、経営戦略としてより先進的対策を求める企業の声が顕在化するのを抑止する「保守化フィルタ」としても機能している。

(2)2017年11月のCOP23の折に、英とカナダが呼びかけの中心となり、「脱石炭発電連合」(Powering Past Coal Alliance)が成立し、合計60以上の国、自治体、企業が加盟している。英国は、カナダ、フランスなどととも、2020年から2030年にかけて石炭火力発電の廃止という方針を発表している。ドイツは、褐炭を用いた石炭火力発電所の停止等、石炭への依存度を低減の方針を明示し、脱原子力と脱炭素の両立をめざす政策が定着している。韓国も、文政権のもとで、稼働30年を超える石炭火力発電所10基を2022年までに廃止する方針を表明している。石炭火力発電の廃止とともに、原発の新規建設計画をすべて白紙に戻し、2基の建設工事を中断、老朽化した炉については稼働期間の延長を認めず、再生可能エネルギーの推進と天然ガス火力に力を入れ、今後40年以内に原発ゼロをめざすと宣言している。首都ソウルで2012年4月から始まった原発1基分の省エネ政策が成功し、2014年6月に計画の半年前に削減目標を達成したことが効いている。

(3)国内における石炭火力発電建設問題については、国内で論争になっている仙台市・千葉市・袖ヶ浦市・横須賀市・神戸市の事例について、関係者からの聴き取り調査を行い、新設をめぐる住民団体・自治体等の姿勢を規定している諸要因の解明に努めた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計6件)

HASEGAWA Koichi, Continuities and Discontinuities of Japan's Political Activism before and after the Fukushima Disaster, D. Chiavacci and J. Obinger eds., *Social Movements and Political Activism in Contemporary Japan: Re-emerging from Invisibility*, 査読有, Oxford: Routledge, 2018, pp.115-135.

HASEGAWA Koichi, Risk Culture, Risk Framing and Nuclear Energy Dispute in Japan before and after the Fukushima Nuclear Accident, 査読有, K-T. Chou ed., *Energy Transition in East Asia*, Oxford: Routledge, 2017, pp.9-27.

佐藤 圭一、日本の気候変動政策におけるプライベート・ガバナンス：経団連「自主行動計画」の作動メカニズム、環境社会学研究、査読有、Vol. 23、2017、pp.83-98.

長谷川 公一、パリ協定採択以後をどう見るか：際立つ日本の消極性、学術の動向、査読無、Vol.21、No.12、2016、pp.40-47.

佐藤 圭一、気候変動政策アイデアのナショナルな分岐とグローバルな収斂の並行過程：国内・海外団体の政策ネットワークによる選択的浸透に注目して、AGLOS (Journal of Area-Based Global Studies)、査読有、Special Edition 2015、2016、pp.1-23 http://dept.sophia.ac.jp/g/gs/wp-content/uploads/2014/04/AGLOS_satou.pdf

BROADBENT, Jeffrey, John Sonnett, Iosef Botetzagias, Marcus Carson, Anabela Carvalho, Yu-Ju Chien, Christopher Edling, Dana Fisher, Georgios Giouzevas, Randolph Haluza-DeLay, Koichi HASEGAWA, Christian Hirschi, Ana Horta, Kazuhiro IKEDA, Jun Jin, Dowan KU, Myanna Lahsen, Ho-Ching Lee, Tze-Luen, Alan Lin, Thomas Malang, Jana Ollmann, Diane Payne, Sony Pellissery, Stephan Price, Simone Pulver, Jaime Sainz, Keiichi SATOH, Clare Saunders, Luisa Schmidt, Mark C. J. Stoddart, Pradip Swarnakar, Tomoyuki TATSUMI, David Tindall, Philip Vaughter, Paul Wagner, Sun-Jin Yun, and Sun Zhengyi, Conflicting Climate Change Frames in a Global Field of Media Discourse, *Socius: Sociological Research for a Dynamic World*, 査読有、Vol.2, 2016、pp. 1-17. <http://srd.sagepub.com/cgi/content/short/2/0/2378023116670660?rss=1&ssource=mfr>

〔学会発表〕（計17件）

HASEGAWA, Koichi, Japan's Civil Society before and after the Fukushima Disaster, Sendai Workshop on Social and Political Dynamics of Crisis and Institutional Change in Japan, Asia and the World, Tohoku University, 2018.

HASEGAWA, Koichi, Civil Society and Renewable Energy in Japan: Focusing on Community Wind in Japan's Context, 2017 NTNU (Norwegian University for Science and Technology) Japan Seminar, 2017.

HASEGAWA, Koichi, Challenges and Perspectives on Energy Transition in Japan, Energy Transition in East Asia, National Taiwan University, 2017.

喜多川 進、環境政策史：「仕掛け」としての機能を考える、環境経済・政策学会、2017.

NOZAWA, Atsushi, From Evacuee to Citizen: Seventh Year's Issue of Evacuation Caused by the Fukushima Nuclear Accident, The 6th International Symposium on Environmental sociology in East Asia, 2017.

SATOH, Keiichi, Heike Brugger and Thomas Malang, Divided We Work, Together We Argue: Explaining the Differences in Consensual Logic of the German and Japan Climate Change Policy Networks, The General Conference of the European Consortium for Political Research, 2017.

⑦ Nagel, Melanie, Vilém Novotný and Keiichi SATOH, Multiple Streams Framework and Policy Network Analysis: Integration of Policy Network, The General Conference of the European Consortium for Political Research, 2017.

長谷川 公一、低炭素社会への転換を：パリ協定採択を受けて、社会学系コンソシアム第8回シンポジウム、日本学術会議、2016.

HASEGAWA, Koichi, Environmental and Risk Awareness after the Fukushima and Tsunami Disaster, The ISA Third Forum of Sociology, 2016.

HASEGAWA, Koichi, Reframing Environmental Sociology from Downstream Perspective, The ISA Third Forum of Sociology, University of Vienna, Vienna, Austria, 2016.

HASEGAWA, Koichi, Civil Society and Renewable Energy in Japan, 2016 NTNU Japan Seminar, Norwegian University for Science and Technology (NTNU), Norway, 2016.

HASEGAWA, Koichi, Climate Change Politics in Japan, International Conference of Environment and Environmentalism in East Asia, Banff, Canada, 2016.

HASEGAWA, Koichi, Risk Culture, Risk Framing and Nuclear Energy Dispute in Japan before and after the Fukushima Nuclear Accident, Workshop of Energy Transition in East Asia, National Taiwan University, 2016.

HASEGAWA, Koichi, Japan's Nuclear Energy Policy after the Fukushima Nuclear Accident, The Institute for Social Development

and Policy Research, Seoul National University, 2016.

SATO, Keiichi, Governing through the voluntarily?: The Japanese Climate change policy and the policy networks”, The ISA Forum of Sociology, 2016.

BROADBENT, Jeffrey, Keiichi SATO and Volker Schneider, Comparing climate change policy networks: Project overview and comparison of Japan, Germany, and the United States, The ISA Third Forum of Sociology, 2016.

Schneider, Volker and Keiichi SATO, Business in climate policy networks: Comparing Germany and Japan, The IPSA 24th World Congress of Political Science, 2016.

〔図書〕(計 4 件)

長谷川 公一・山本 薫子編、有斐閣、原発震災と避難：原子力政策の転換は可能か、2017、283.

西澤 栄一郎・喜多川 進編『環境政策史：なぜいま歴史から問うのか』ミネルヴァ書房、2017、258.

長谷川 公一・品田 知美編、昭和堂、気候変動政策の社会学：日本は変わるのか、2016、270.

町村 敬志・佐藤 圭一編『脱原発をめざす市民活動：3.11 社会運動の社会学』新曜社、2016、257.

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

長谷川 公一 (HASEGAWA, Koichi)
東北大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：00164814

(2)研究分担者

町村 敬志 (MACHIMURA, Takashi)
東北大学・大学院社会学研究科・教授
研究者番号：00173774

喜多川 進 (KITAGAWA, Susumu)
山梨大学・総合研究部・准教授
研究者番号：00313784

池田 和弘 (IKEDA, Kazuhiro)
日本女子大学・人間社会学部・講師
研究者番号：20590813

中澤 高師 (NAKAZAWA, Takashi)
静岡大学・情報学部・講師
研究者番号：50723433

野澤 淳史 (NOZAWA, Atsushi)
東京大学・大学院教育学研究科・特別研究員
研究者番号：30758503

佐藤 圭一 (SATO, Keiichi)
大阪経済法科大学・アジア太平洋研究センター・客員研究員
研究者番号：40757093
(平成29年度後半より連携研究者)

(3)連携研究者

(4)研究協力

小西 雅子 (KONISHI, Masako)
品田 知美 (SHINADA, Tomomi)
辰巳 智行 (TATSUMI, Tomoyuki)
BROADBENT, Jeffrey
KU, Dowan